

「関東ブロックにおける社会資本整備重点計画」に対する御意見

氏 名	所 属
小野 良平	立教大学 観光学部観光学科 教授

■ご意見の内容(1/1)

1. 重点目標6にグリーンインフラについて記載されているが、これは重点目標1の防災・減災関連とリンクする話となる。経済だけでなく生態学的側面ももつ「レジリエンス」というキーワードを含めていくことでグリーンインフラとも繋がっていくのではないか。
2. 防災については土地利用の問題もあわせて考えていく必要がある。もともと人が住んではいけないようなところに住むようになったという歴史的経緯もある。今後5年間の計画で取り入れることは難しいと思われるが、土地利用も含め、将来どこに人が暮らしていくのかも考えつつ、社会資本整備を進めていかなければならない。
3. 真の豊かさを構築するための目的として、「経済成長の実現」と「持続可能な地域社会の形成」が挙げられている。経済成長も持続可能性に関わるものと考えられ、双方の関係性が分かりにくい。同様に、3つの総力についても、特に時間軸の総力などは分かりやすい表現とすべきである。
4. 最近良く使われている「脱炭素社会・脱炭素化」という言葉に違和感を持っている。二酸化炭素の排出を抑制することと理解はできるが、炭素は生命体を構成する基本元素であるし、グリーンインフラを謳う中での「インフラ分野の脱炭素化」という表現は単純に矛盾しており、言葉の問題ではあるが懸念される。
5. 道路事業評価では、過去に計画された道路がそのままの構成で実現されようとしているものも見受けられる。ネットワークの推進は良いが、各ネットワークの線の太さはそのままでも良いのか。広すぎる道路は地域を分断してしまうこともある。今後の人口減少下においてはそのようなことも考慮する必要がある。